第一小論Net × SDGs

【今月の問い】

Q. ニュースダイジェスト 2025年6月号 で紹介した以下の記事を読み、以下の①～③について考えよう。

●SDGs 達成状況　政府報告書
SDGs（持続可能な開発目標）の達成状況を政府自らが検証し、各国と共有するための「自発的国家レビュー（VNR）報告書」をまとめた。メーカーなど事業系から出る食品ロスが８年前倒しで半減したことや、約67％の自治体がSDGsを通じた課題解決に取り組んでいることなどを成果としている。子どもの貧困率が11.5％に低下した点や、社会課題の解決に投資するサステナブルファイナンスの残高が2024年は約626兆円に拡大した点も好事例とした。これまでも遅れが指摘されてきたジェンダー平等は、「克服すべき課題」だ。毎年発表されるジェンダーギャップ指数でも、146か国中118位（2024年版）と低迷が続いており、主要先進国の中でも男女の賃金格差が大きいという。教育の質にかかわる課題や、国内人権機関の必要性なども指摘された。（ニュースダイジェスト　2025年6月11日より）
●SDGs 達成ランキング　日本 19 位
国連と連携する国際的な研究組織「持続可能な開発ソリューション・ネットワーク（SDSN）」が、各国のSDGs達成状況をまとめた「持続可能な開発リポート 2025」を発表した。日本は昨年より一つ順位を下げて19位となったが、欧州以外の国ではトップだった。全体ではフィンランドが５年連続で１位。日本は「持続可能な農業」（目標２）、「ジェンダー平等」（目標５）、「責任ある消費と生産」（目標12）、気候変動対策（目標13）、海の環境保全（目標14）、陸の環境保全（目標15）において、「深刻な課題がある」とされる最低評価となった。また、これまで達成済みとされていた「産業と技術革新」（目標９）の評価が２段階下がった。（ニュースダイジェスト　2025年6月25日より）

①なぜ日本はジェンダーギャップ指数で低い順位にとどまっているのか？
②都市部と地方で SDGs の取り組みに差があるのはなぜだろうか？
③SDGs は「世界を変える力」になるだろうか？　それとも単なる理想にすぎないのか？

※次ページの解説も参考にしよう！

みつめたい教育と未来 第一学習社

今月の SDGs

※ 北九州市立大学 地域創生学群 教授 眞鍋和博先生に、SDGs の達成度について解説いただきました。

SDGs（持続可能な開発目標：Sustainable Development Goals）

日本政府はSDGs進捗状況をまとめた「自発的国家レビュー（VNR: Voluntary National Review）」を発表しました。このレビューでは、いくつかの成果と課題が明らかにされています。

まず、食品ロスの削減では、メーカーなど事業系から出る廃棄が目標より8年も早く半減されました。これは、企業の努力と技術革新の成果といえるでしょう。また、全国の約67%の自治体がSDGsを活用して地域課題の解決に取り組んでいることも、社会全体の意識の高まりを示しています。子どもの貧困率が11.5%に低下したことや、社会課題に投資する「サステナブルファイナンス」が625兆円に達したことも、前向きな変化です。

しかし、課題も多く残されています。特に、「ジェンダー平等を実現しよう」(SDGs5番)は、克服すべき重要なテーマです。日本は2025年のジェンダーギャップ指数で148か国中118位と低迷しており、男女の賃金格差が大きいことが指摘されています。また、国際的なSDGs達成度ランキングでは、日本は19位となりました。欧州以外ではトップですが、「持続可能な農業」（SDGs2番）、「ジェンダー平等」（SDGs5番）、「責任ある消費と生産」（SDGs12番）、気候変動対策（SDGs13番）、海の環境保全（SDGs14番）、陸の環境保全（SDGs15番）で最低評価を受けています。

さらに、日本のSDGs進捗において、少子高齢化も深刻な課題の一つです。高齢者人口の増加と出生率の低下により、労働力不足や社会保障の持続可能性が問われています。これは「人や国の不平等をなくそう」(SDGs10番)や「働きがいも経済成長も」(SDGs8番)に直結する問題です。

また、もう一つの課題として、地方のSDGs推進の格差が挙げられます。都市部に比べて地方では情報や資源が限られ、SDGsの取り組みが十分に浸透していない地域もあります。これは「住み続けられるまちづくりを」（SDGs11番）や「パートナーシップで目標を達成しよう」（SDGs17番）の観点から改善が求められています。

このように、SDGsの現状を知ることは、私たちが未来をどう生きるかを考える第一歩です。高校生の皆さんにとって、SDGsは遠い世界の話ではありません。例えば、学校での食品ロス削減活動や、ジェンダーについての議論、地域の環境保全活動など、身近なところから行動を始めることができます。

また、情報を正しく理解し、周囲と共有することも大切です。SNSでの発信や、学校の授業での意見交換を通じて、SDGsの課題を「自分ごと」として捉えることが、社会を変える力になります。

SDGsは「誰一人取り残さない」ことをめざしています。そのためには、若い世代の皆さんが、現状を知り、考え、行動することが不可欠です。未来をつくるのは、今を生きる私たち自身です。

みつめたい教育と未来 第一学習社